

# 第1期長野県高等学校再編計画 まとめと課題の整理(中間まとめ)

平成 25 年 3 月

長野県教育委員会

## 目 次

～ これまでの経緯 ～ .....	1
第1 「第1期再編計画」策定の基本的な考え方 .....	3
第2 魅力ある高校づくりの推進方針 .....	5
第3 高校の規模と配置の適正化の推進方針 .....	10
第4 再編校の募集開始までのスケジュールと再編統合の手順 .....	11
第5 旧通学区ごとの第1期再編計画 .....	14
<資料>	
資料1 第1期長野県高等学校再編計画の概要 .....	40
資料2 【第2期長野県高等学校再編計画】 策定のスケジュール .....	41

## ～ これまでの経緯 ～

県教育委員会は、中学校卒業生数の減少や生徒の多様化等の課題に対応し、明日を担う高校生により良い教育環境を提供するため、平成21年6月、「魅力ある高校づくり」と「高校の規模と配置の適正化」の2つの視点を柱とする「第1期長野県高等学校再編計画」を策定し、以後それに基づいて、概ね平成30年頃までに実施する予定の再編計画を第1期と位置づけ、高校再編を進めてきた。

これまでの高校再編の経緯を辿ると、本県の中学校卒業生数が平成2年3月をピークとして継続的な減少が見込まれる中、県教育委員会は、平成16年1月、外部の有識者から構成される「長野県高等学校改革プラン検討委員会」を設置することから高校改革に着手し、平成19年4月には、飯山高校、中野立志館高校、木曾青峰高校の3校を開校するとともに、多部制・単位制高校に転換した松本筑摩高校、総合学科高校に転換した丸子修学館高校の2校もスタートさせた。

しかし、この間の高校再編への取組では、計画策定に至る手法や進め方等に無理があり、地域や県議会での合意を得られた上記の5校を除いては、地域等の理解が十分には得られなかったことを踏まえ、平成19年6月、「高等学校改革プランの今後の進め方について」により、高校再編の新たな方針・基準を示し、教育関係者の声を聞きながら、今後2年間をかけて、改めて再編計画を策定することとした。

その後、長野県高等学校長会など各方面の意見を参考に、平成20年6月、「長野県高等学校再編計画の骨子案」を作成し、再編計画の基本的な考え方を示すとともに、旧12通学区ごとに再編計画の方向を提案した。

これを受け、県内のいくつかの地域において、地元自治体や学校関係者等による検討組織が設立され、地域における将来の高校のあり方等についての議論が行われた。このような検討組織からの提言や地域の方々との話し合いを踏まえ、平成21年3月に「第1期長野県高等学校再編計画（案）」を公表し、パブリックコメントの実施や県下4地区で開催した地域懇談会での意見聴取を経て、平成21年6月、「第1期長野県高等学校再編計画」を策定した。

再編計画策定後は、再編対象校の教職員を中心に構成される新校準備委員会における検討や、地域や学校関係者から構成される地域懇話会での議論を参考に、再編対象校ごとに個別の実施計画を策定し、地域の方々の理解と協力を得ながら開校に向けた準備を進めている。

また、定時制課程で学ぶ生徒のニーズ等の変化を踏まえ、引き続き多部制・単位制の設置を進めるとともに、地域や学校等からの要望や高い期待に応えて新たに中高一貫校の設置も進めている。更に、地域における高校教育の機会の保障を図るため、小規模な地域高校については基準に基づいて地域キャンパス化するなどの取組を進め、現在に至っている。

以上がこれまでの経緯の概要であるが、第1期再編計画を実施することにより、平成30年頃までに、総合学科を3校、多部制・単位制を3校、中高一貫校を2校、総合技術高校を3校開校するとともに、県立高等学校は89校から79校に再編統合される。その進捗状況の詳細については、資料1「第1期長野県高等学校再編計画の概要」のとおりである。

ところで、21世紀は、新しい知識・情報・技術が社会のあらゆる領域での活動の基盤をなす知識基盤社会の時代と言われている。また、情報化やグローバル化の進展、産業・就業構造の変化等が急速に進む中で、高校教育には、教育の質の維持・向上、多様化する進路希望への対応、キャリア教育・職業教育の充実、社会や地域との連携の推進等がますます求められている。

このような状況を踏まえ、現行再編計画の成果や課題を把握し、より一層魅力ある学校づくりの推進を図るため、これまでの取組の中間まとめを行った。

今後、この中間まとめを踏まえ、平成30年以降に実施予定の第2期再編計画策定に向けた準備を進めていきたいと考えている。

## 第1 「第1期再編計画」策定の基本的な考え方

### 1 「魅力ある高校づくり」と「高校の規模と配置の適正化」の2つの視点を柱に据えたことについて

#### 【成果】

- ・2つの視点は、現在の大きな教育改革の流れ、社会の変化、本県の高校や生徒の置かれている状況等を十分に踏まえて設定されたものであり、この2つの視点を基本的な柱に据えたことは、今後の望ましい県立高校のあり方を示す上で適切であった。
- ・2つの視点は表裏一体の関係にあり、相互に補完し合うものであるが、学校規模の問題だけでなく、「魅力ある高校づくり」を前面に掲げたことにより、説得力のある再編計画を策定できた。
- ・これまで実施した再編統合により、生徒数が減少する中であっても、高校の教育活動の活力を維持・向上させ、学校の活性化を図ることができ、2つの視点を柱に据えて再編統合を進めたことは適切であった。

#### 【課題】

- ・生徒により良い教育環境を提供するためには、今後とも引き続き教育の質を高めて魅力を出していくことが必要であり、第2期再編計画においても、このような視点を基本的な柱に据えていくことが大切である。
- ・第2期再編計画の策定にあたっては、外部の有識者等から構成される検討委員会からの答申をもとに、様々な機会を利用して広く県民の声を聞きながら進めていくことがこれまで以上に大切である。

### 2 「魅力ある高校づくり」と「高校の規模と配置の適正化」の2つの柱それぞれに4つの観点を設け、再編計画を策定するための指針としたことについて

#### 【成果】

- ・それぞれの4つの観点は、生徒減少時代における目指すべき学校像を具現化する指針として適切であった。

#### 【課題】

- ・今後の社会情勢等の変化に伴い、新たな観点を、更に付け加える必要があるかどうかの検討が必要である。

### 3 各地域における検討組織や自治体関係者からの提言を尊重し、できるだけ再編計画に生かしたことについて

#### 【成 果】

- ・地域における高校の役割やあり方等について、学校関係者のみならず広く地域の方々に、改めて考えていただく契機になった。
- ・いただいた提言も、幅広い視点から研究・検討されていて、再編計画や実施計画の中に生かすことができた。

#### 【課 題】

- ・第2期再編においても、地域における将来の高校のあり方等について、地域の声を反映させていくことが必要である。

### 4 高校再編の実施区分について、概ね平成30年頃までに実施する予定の再編計画を第1期と位置づけたことについて

#### 【成 果】

- ・再編計画の策定にあたっては、検討開始時の平成19年度の0歳児が高校に入学する平成34年度までの生徒数を基礎的データとしていることから、平成30年頃を一つの区切りとして第1期と位置づけたことは適切であった。

#### 【課 題】

- ・第2期再編計画においても、基礎的データの裏付けのとれる平成40年頃を視野に入れた計画を策定していくことが適切である。

### 5 設置の方針は示したが具体的な計画にまで至っていないものや、学校や地域からのプロポーザルについては、個々に検討していくとしたことについて

#### 【成 果】

- ・学校や地域により学校の置かれている状況は異なることから、その状況に応じて個々に検討する余地を残したことは適切であった。

#### 【課 題】

- ・第2期再編においても、学校や地域の状況に応じて柔軟に対応できる余地を残すことが必要である。

## 6 計画の実施にあたって、特別支援学校再編整備計画と連動させ、校地等の有効な活用に配慮したことについて

### 【成 果】

- ・特別支援学校高等部分教室については、今後の設置予定も含め、第1期再編計画の計画どおり各通学区に1校ずつ設置することができ、関係者、地域からの要望に応えることができた。
- ・特別支援学校高等部分教室の設置は、分教室の教育的な効果や校地校舎の有効活用等の観点からも適切であった。

### 【課 題】

- ・今後の特別支援学校高等部分教室の設置については、支援を要する生徒が年々増加している現状や生徒・保護者等のニーズを踏まえ、特別支援教育課と連携を取りながら、「長野県特別支援教育推進計画」に基づき、設置の可能性について検討していくことが必要である。

## 第2 魅力ある高校づくりの推進方針

### 1 多様な学びの場の提供

#### (1) 総合学科

##### 【成 果】

- ・第3通学区（南信地区）を除く他の通学区については、ほぼ第1期再編計画の計画どおりに設置することができた。
- ・1年次に全ての生徒が「産業社会と人間」を履修し、将来の生き方やあり方等を考えた上で、2年次より生徒自らの興味・関心、進路希望等に応じて幅広い選択科目の中から主体的に選択して学べるシステムを導入することにより、生徒の多様なニーズに応じることが可能となった。また、そのことが、生徒の学習意欲の向上や学校への満足度の向上、中途退学者の減少に繋がっている。
- ・生徒に対するアンケート等によれば、総合学科における生徒の学校への満足度は比較的高いが、これも総合学科でのキャリア教育等の取組の成果の表れである。
- ・総合学科では、生徒一人ひとりの時間割が異なり、その結果、生徒の出欠や成績の管理が難しくなるため、学校運営支援システムを導入している。これは、有効に機能しており、各校で必要不可欠なシステムとなっている。また、多部制・単位制も同様な状況であるので、多部制・単位制の学校にも同様なシステムを導入している。

### 【課 題】

- ・今後、第3通学区(南信地区)への設置を含めた更なる設置については、生徒の志願状況や地域の実態、地域の総合学科に対する要望等を踏まえた上で更に検討を進めていくことが必要である。
- ・併せて、これまでは専門学科をベースにした総合学科を設置してきたが、今後は普通科をベースにした総合学科の設置が可能かどうかについての検討も必要である。
- ・総合学科の各系列については、今後、生徒の学習ニーズや進路状況等を勘案しながら、必要に応じて見直しを行うなど、更なる魅力づくりに繋げていくことが必要である。
- ・総合学科については、その教育内容や特徴等が必ずしも中学生や保護者、中学校等に十分には理解されていないとの指摘もあることから、総合学科への理解が深まるよう、これまでの取組の成果等を踏まえながら、今まで以上にわかりやすい情報発信に努めていくことが必要である。

## (2) 多部制・単位制

### 【成 果】

- ・多部制・単位制は、志願状況等からみても、多様な生徒のライフスタイルや興味・関心、能力・適性、進路希望等に対応できる学校として、その必要性が高いと判断できる。
- ・多部制・単位制では、単位制や他部履修ができる利点を生かして、学年にとらわれずに多様な科目を選択できたり、自分の学習ペースにあわせて3年間で学習を修了し卒業できるなど、様々な生活パターンや学習ニーズを持つ生徒に対応できるシステムとして有効に機能している。
- ・習熟度別授業や少人数指導等のきめの細かな指導により、中学校時代に悩みを抱え不登校であった多くの生徒が登校できるようになっている。

### 【課 題】

- ・多部制・単位制に対するニーズが高いことから、第1通学区(北信地区)の多部制・単位制の設置については、第2期再編計画の策定とあわせて、更に検討を進めていくことが必要である。
- ・様々な入学動機や学習歴・ライフスタイルを持つ生徒が入学してくることから、これら多様な生徒にきめ細かに対応できる教育相談体制の更なる整備・充実が必要である。
- ・どの高校においても、それぞれの校種に応じた効果的なキャリア教育の取組を進めていくことが大切であるが、とりわけ多部制・単位制を含む定通教育においては、自立した社会人や職業人となるための基盤を育むキャリア教育や職業教育のより一層の充実が必要である。
- ・今後、多様な学習歴や生活歴を持つ生徒が、活動に参加することを通して、楽しみ

を覚え、その中で人間関係づくりやコミュニケーション能力の向上がより一層図れるような、新しい部活動の在り方についても検討していくことが必要である。

※注1 キャリア教育：一人一人の社会的・職業的自立に向け、必要な基盤となる能力や態度を育成する教育で、普通教育、専門教育を問わず様々な教育活動の中で行われ、この中には職業教育も含まれる。

※注2 職業教育：一定又は特定の職業に従事するために必要な知識、技能、能力や態度を育成する教育で、具体の職業に関する教育を通して行われる。

### (3) 中高一貫教育

#### 【成 果】

- ・平成24年4月に、県下初の公立中高一貫校として屋代高校附属中学校を開校し、生徒・保護者並びに地域や学校関係者の高い期待やニーズに応えることができた。
- ・従来の地元中学校等への進学に県立中学校への選択肢を新たに加えることができた。
- ・屋代高校附属中学校や諏訪清陵高校附属中学校（仮称）の取組が、地元の他の中学校等の教育活動に大きな影響を与え、そのことがひいては地域の教育力の向上に繋がることを期待できる。

#### 【課 題】

- ・検証は、モデルケース2校の今後の教育活動等の評価をもって行う。
- ・県下初の取組であることから、継続的な状況把握に努めることが必要である。
- ・中高一貫校に対する生徒・保護者や社会のニーズも高いことから、他地区への設置については、モデルケース2校の教育実践等の成果を踏まえるとともに、配置のバランス、地域の実情等を考慮しながら検討していくことが必要である。

### (4) さまざまなタイプの学校

#### 【成 果】

- ・学校からのプロポーザルを踏まえ、平成21年度、岡谷南高校に進学対応型単位制を導入した。

#### 【課 題】

- ・学校や地域からの具体的なプロポーザルがある場合には、今後第2期再編計画を策定する中で、学校や地域の状況等を踏まえるとともに、全県的な視野に立ちながら検討していくことが必要である。

## 2 専門高校の改善・充実

### (1) 基幹校と特色校

#### 【成果】

- ・専門高校の規模や配置の適正化を進めるにあたり、産業教育審議会の答申（平成20年10月）に基づいて、基幹校と特色校の考え方を導入した。
- ・基幹校が専門性の高い資格の講習会や進学セミナー、コンテスト等を企画し、特色校やインナー校に参加を呼びかけることにより、特色校やインナー校においても専門的な活動の機会を確保できている。
- ・模擬株式会社を運営して販売活動を行うなど、基幹校でなければ実施が困難な専門性の高い活動を、特色校やインナー校と共同開催することが検討されており、専門高校全体の専門性の向上を図ろうとしている。

※注 インナー校：職業系専門科目を教育課程の中に位置づけている普通高校

#### 【課題】

- ・産業教育審議会の答申で示された施設設備の充実が今後の課題となっている。
- ・専門教育の学びの場を、全体的・総合的な視野に立ちながら適切に維持するという観点から、第2期再編においても、基幹校と特色校による整備を更に推進し、各地域の専門教育の環境整備を図っていくことが必要である。
- ・今後の少子高齢化や高度情報化の進行、産業構造や雇用形態の変化等を踏まえ、産業教育審議会を設置して、高校における産業教育のあり方等について検討することが必要である。
- ・生徒一人ひとりの学習ニーズに十分に答えていくためには、各校単独での対応には限界があるため、地域の普通高校や専門高校を横断的かつ有機的に連携させ、それぞれの教育の長所を生かして教育資源を組み合わせることが求められる。その際、専門的な教育実践を地域の高校生に提供したり、地域のキャリア教育の一部を実施するなど、専門高校には地域のセンター的な役割を担うことが期待される。

### (2) 総合技術高校

#### 【成果】

- ・総合技術高校という新しいタイプの専門高校を構想することにより、時代の変化に対応した多面的な職業能力を有する職業人の育成が可能になった。総合技術高校は、産業構造の変化や技術革新に柔軟に対応することができる有効な選択肢である。

#### 【課題】

- ・新しく設置した総合技術高校については、その特徴を生かした学校の魅力づくりを積極的に進めていくことが必要である。なお、現在開校に向けた準備を進めているところであり、成果と課題についての検証は、開校後の教育活動等の評価をもって行う。

### 3 各校における魅力づくり

#### (1) 特色学科の改善充実

##### 【成 果】

- ・平成26年4月の飯山2次統合校の開校に先立って、平成24年度から飯山北高校に自然科学探究科、人文科学探究科を、飯山高校にスポーツ科学科を設置した。
- ・平成28年4月開校予定の大町地区の統合校（大町高校と大町北高校の統合校）にも、これまでの理数科を継承・発展させた学究科を設置予定である。
- ・探究的な学科は設置したばかりで、結果が出ているわけではないが、地域の高校教育を担うオールラウンドな学校づくりを進める上で有効な選択肢である。

##### 【課 題】

- ・知識基盤社会が到来する中で、自然の現象や原理・法則、人間の文化や社会等について、探究的な学習を行い、今後求められる思考力や判断力、表現力等を高め、多角的な視野で物事を考え、未知の状況にも的確に対応できる力を持った生徒を育成していく探究的な学科の更なる設置について、検討を進めていくことが必要である。
- ・各高校の実態を踏まえるとともに、設置している学科の特性等にに応じて、特色ある教育課程の編成や教育内容の工夫・改善に、より一層努めていくことが必要である。

#### (2) 普通高校の魅力づくり

##### 【成 果】

- ・普通高校の魅力づくりについては、これまでも各高校において、開かれた学校づくり、学力向上、教育課程の改善、キャリア教育の推進等の取組が行われてきている。

##### 【課 題】

- ・職業教育を含めたキャリア教育のより一層の充実を図るなど、今後とも更なる魅力づくりに取り組んでいくことが必要である。
- ・少子高齢化が進行する地域にあっては、地域を支える人材の確保が課題となっており、高校の魅力づくりを進めるにあたっては、地域を支える人材を育成するために必要な教科・科目を設定し、それを新たな魅力づくりに繋げていくことが必要である。

### 4 高等学校における特別支援教育の推進

##### 【成 果】

- ・平成20年度から全ての高校で、校内委員会の設置や特別支援教育コーディネーターの指名など、校内支援体制の確立に向けた取組が行われている。

#### 【課 題】

- ・ 中学校特別支援学級卒業者の約6割が高校に進学している状況を踏まえ、支援に関する情報の共有等を含めた中学校と高校との連携、特別支援学校のセンター的機能の活用、専門家や関係機関との連携、校内研修の充実、インクルーシブ教育についての研究等を更に進め、特別支援教育に係る校内体制の整備・充実をより一層図っていくことが必要である。

### 第3 高校の規模と配置の適正化の推進方針

#### 1 地域の高校教育を担う学校づくり

##### 【成 果】

- ・ 旧第1、第10、第12通学区においては、ほぼ第1期再編計画に沿う形で、オールラウンドな高校づくりを進めてきている。

##### 【課 題】

- ・ 少子化の進行が著しい地域においては、今後とも学科や選択科目等を充実させたオールラウンドな高校づくりを進めることが必要である。
- ・ 高校が教育の場としてはもとより地域の文化的拠点としての役割を果たしている点を踏まえ、中山間地の振興の観点からも、これまで以上に地元自治体との連携を重視した取組をしていくことが必要である。

#### 2 地域における教育機会の保障

##### 【成 果】

- ・ 地域キャンパス化を進めることにより、子どもたちの学びの場として、地域における高校教育の機会の保障を図ることができた。
- ・ 長野西高校中条校、篠ノ井高校犀峽校いずれも、地域キャンパス校として比較的順調にスタートしており、学校の取組に対する地域の評価は高い。

##### 【課 題】

- ・ 小規模であっても教育の質を維持するためには、教員配置の面で一定程度の配置が必要であるなど負担が大きく、県全体の教員定数を考えた場合の課題となっている。
- ・ 今後更なる生徒数の減少が見込まれることから、地域における教育機会の保障のあり方について総合的に検討していくことが必要である。

### 3 学校の適正規模の確保

#### 【成 果】

- ・学校の適正規模の確保は、魅力と活力ある高校づくりを進め、教育水準の維持・向上を図る上で不可欠な視点である。

#### 【課 題】

- ・平成30年代には更なる生徒数の減少が見込まれることから、今後どのようにして学校の適正規模を確保し、生徒にとって魅力と活力のある教育環境を提供していくのか、各地域の状況や社会情勢等も踏まえながら、様々な角度から検討していくことが必要である。

### 4 定時制・通信制の適正配置

#### 【成 果】

- ・第3通学区（南信地区）、第4通学区（中信地区）では、多部制・単位制の設置にあわせ、概ね定時制課程の適正配置を図ることができた。

#### 【課 題】

- ・今後とも、多部制・単位制の設置にあわせ、定時制・通信制の適正配置を考えていくことが必要である。併せて、多部制・単位制と既存の定時制・通信制との連携のあり方についても検討していくことが必要である。

## 第4 再編校の募集開始までのスケジュールと再編統合の手順

### 1 基本方針

#### 【成 果】

- ・再編計画決定後の進め方については、基本方針に基づいて進めてきたが、その進め方は概ね適切であった。

#### 【課 題】

- ・個別の実施計画の策定にあたっては、開校年度、活用する校地校舎等の基本的な事項に加え、新校準備委員会や地域懇話会での合意事項等をもう少し具体的に書き込んでいくかどうかについて検討していくことも必要である。

## 2 具体的な再編作業について

### 【成 果】

- ・具体的な再編作業を進めるにあたっては、新校準備委員会と連携するとともに、必要に応じて地域懇話会を開催し、地域や学校関係者等からの声を聞きながら開校準備を進めてきた。その結果、地域の理解を得ながら、丁寧に再編を進めることができた。

### 【課 題】

- ・今後とも、地域の声を聞き、地域の理解や合意を得ながら再編作業を進めることが大切である。なお、どのように地域の声を反映させていけばよいのか、現在の方法も含め、今後検討していくことが必要である。

## 3 主なスケジュール

### 【成 果】

- ・第1期再編計画を策定し、個別の実施計画を決定後は、新校準備委員会と連携するとともに、地域懇話会で地域の求める学校像を聞きながら、開校に至るまでのスケジュールに概ね従って再編を進めてきている。

### 【課 題】

- ・第2期再編においても、実施計画決定後は開校に向けた準備を着実に進めていくことが大切である。

## 4 再編統合の手順

### 【成 果】

- ・これまでの再編は全て年次進行で進められたが、順調に開校するとともに、開校後の学校運営も比較的スムーズに行われている。

### 【課 題】

- ・再編統合にあたって、一斉統合、年次統合のどちらがよいのか、在校生の状況や校舎の収容能力、施設・設備のあり方等を含め、十分に検討して進める必要がある。特に、平成25年4月開校の飯田O I D E長姫高校は、第1期再編計画の中では県下初の一斉統合となることから、開校後の同校の状況を把握していくことが必要である。

## 5 その他

### 【成 果】

- ・第1期再編計画では旧12通学区ごとに再編を考えたが、旧通学区は生徒の実質的な生活圏であることから、地域と密接に連携しながら、また、地域からの要望を聞きながら、再編を進めることができた。
- ・経費的な面では、人件費に限って試算してみても、第1期再編計画が終了すると、年間約15億円程度の削減が見込まれる。
- ・再編統合後の後利用については、県有財産ファシリティマネジメントの基本方針に沿って検討するとともに、後利用懇話会等を通して地元自治体等との協議を行い、その有効利用を図っている。飯山市では閉校となる高校を市の中学校として利用するとともに、中学校跡地を再編校の一部として利用することとしており、地元自治体との有効利用を図っている。また、木曾山林高校の一部は、木曾看護専門学校として利用しており、県有財産の有効利用を図っている。その他、中野高校は中野市に、木曾山林高校のグラウンド部分は木曾町にそれぞれ譲渡している。

### 【課 題】

- ・第1期再編計画の実施により各地域の再編が進んでいることから、今後はもう少し大きな括りの中で考えていく必要がある。今後第2期再編計画の策定にあたっては、より広域的な地域単位での設置も視野に入れつつ検討していくことが必要である。
- ・再編に係る施設・設備の整備には多額の予算を必要とすることから、完成までを見通した財政面での十分な検討が必要である。
- ・新しいタイプの学校や新しい学科を設置して教育内容の充実を図る場合や、再編の準備のために業務量が増加する場合は、それに見合った教職員の確保が必要である。

## 第5 旧通学区ごとの第1期再編計画

### 1 第1通学区の再編計画

#### (1) 旧第1通学区（第1通学区）

- 飯山照丘高校と飯山南高校を再編統合し、飯山高校を設置した。〔平成19年度〕  
（飯山高校1次統合）

#### 【実施した計画】

- 1 対象校 飯山照丘高校、飯山南高校
- 2 募集開始年度 平成19年度
- 3 活用する校地校舎 飯山南高校
- 4 設置課程・学科 全日制 普通科3学級、体育科1学級  
及び募集学級数

#### <参考（飯山高校2次統合）>

- 飯山北高校と飯山高校を再編統合し、飯山高校を設置する。

#### 【実施中の計画】

- 1 対象校 飯山北高校、飯山高校
- 2 募集開始年度 平成26年度
- 3 活用する校地校舎 飯山北高校
- 4 設置課程・学科 全日制 普通科3学級、スポーツ科学科1学級  
及び募集学級数 自然科学探究科1学級  
人文科学探究科1学級

#### 【現在の状況】

##### 1 志願倍率の変化

時期	年度	学校	学科	志願倍率		募集定員	入学者 合計
				前期選抜	後期選抜		
統合前	H17	飯山照丘	普通	0.40	0.41	80	49
		飯山南	普通	1.58	1.09	80	82
			体育	1.22	1.25	40	41
現在	H24	飯山	普通	1.58	0.89	80	73
			スポーツ科学	0.83	0.43	40	32

## 2 学校の状況

<p>入学の状況</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・統合により、当初の想定以上に学力幅が拡大した。</li> <li>・飯山高校に入学する第1区中学校卒業者の割合は、統合前後で大きな変化はない。</li> <li>・スキー競技人口の減少にともない、スポーツ科学科に入学してくる生徒も減少している。</li> <li>・2次統合では1次統合以上に学力幅の拡大が生じることは明白であり、新たな学習指導・進路指導体制の構築が必要である。</li> </ul>																		
<p>学習の状況</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学力幅の拡大に対応するため、普通科にコース制（アドバンスコース、キャリアコースの2コース）を導入するとともに、数学・英語で1年次より習熟度別授業を実施している。これらは、学習指導体制として定着させている。</li> </ul>																		
<p>進路の状況</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・統合後、就職は増加傾向にある。</li> <li>・進学については、推薦入試主体の進路指導が行われている。</li> <li>・国公立大学を目指す進学希望者層と増加している就職希望者層が混在する中で、進路実現を図るきめ細かな指導体制づくりが重要課題の一つである。</li> </ul>																		
<p>生徒の概況</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・統合前の輝かしい実績を継承し、統合により新たな歴史や伝統を作っ­ていこうという思いを、体育科（スポーツ科学科）、普通科それぞれの生徒が強く持っている。</li> <li>・学力幅が大きく多様なニーズを持った生徒に対応するため、個別指導や中学校、NPO団体との連携が必要になってきている。</li> </ul>																		
<p>課外活動</p>	<table border="1" data-bbox="523 1279 1378 1503"> <thead> <tr> <th>時期</th> <th>年度</th> <th>学校</th> <th>運動系</th> <th>文化系</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="2">統合前</td> <td rowspan="2">H17</td> <td>飯山照丘</td> <td>35.4%</td> <td>4.7%</td> </tr> <tr> <td>飯山南</td> <td>80.8%</td> <td>3.1%</td> </tr> <tr> <td>現在</td> <td>H24</td> <td>飯山</td> <td>76.8%</td> <td>17.6%</td> </tr> </tbody> </table> <ul style="list-style-type: none"> <li>・統合後、部活動加入率は90%台になり、活動は活発である。</li> <li>・全国高校スキー大会において平成21年度、23年度に女子が総合優勝し、野球は平成21年度に県のベスト4、23年度に県のベスト8になっている。</li> </ul>	時期	年度	学校	運動系	文化系	統合前	H17	飯山照丘	35.4%	4.7%	飯山南	80.8%	3.1%	現在	H24	飯山	76.8%	17.6%
時期	年度	学校	運動系	文化系															
統合前	H17	飯山照丘	35.4%	4.7%															
		飯山南	80.8%	3.1%															
現在	H24	飯山	76.8%	17.6%															
<p>学校運営</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・統合前の準備期間から、準備委員会や合同職員会議を開催するなど、両校の職員が1次統合に向けた取組を連携・協力して進めてきており、統合時の指導体制で混乱は生じなかった。</li> <li>・一方、統合に伴う校舎移転、引越しにおいては、通常業務と残務整理を並行して行うことになり、特に行政職員の負担は大きかった。</li> <li>・平成26年の2次統合では、地域唯一の普通高校になることから、統合に伴い普通科、自然科学探究科、人文科学探究科、スポーツ科学科を併置する</li> </ul>																		

	学校になる利点を最大限生かして、希望を持って入学してきた生徒の期待に応えることのできるオールラウンドな学校づくりを進めていきたい。
地域との連携	・飯山照丘高校、飯山南高校両校ともに、統合前から地域との結びつきが強く、市の祭りやJ Aの催しなどにも生徒が運営参加してきた経緯があり、1次統合後から始めた1年生のインターンシップ実施にも繋がっている。
PTA・同窓会	・PTAは平成19年度入学の1期生の保護者からPTA会長を選出して、飯山南PTA会長のもと、合同で運営にあたり、組織の移行は円滑に完了した。 ・同窓会は両校が閉校する前に統合に向けた協議を始め、平成21年1月に両校同窓会合同の臨時総会を開催して、飯山高校同窓会発足を決議した。1期生の卒業式には新同窓会として臨んでいる。

## (2) 旧第2通学区（第1通学区）

- 中野高校と中野実業高校を再編統合して中野立志館高校を設置し、総合学科に転換した。

[平成19年度]

### 【実施した計画】

- 1 対象校 中野高校、中野実業高校
- 2 募集開始年度 平成19年度
- 3 活用する校地校舎 中野実業高校
- 4 設置課程・学科 全日制 総合学科7学級  
及び募集学級数 定時制 普通科1学級

### 【現在の状況】

- 1 志願倍率の変化（全日制）

時期	年度	学校	学科	志願倍率		募集定員	入学者 合計
				前期選抜	後期選抜		
統合・ 転換前	H17	中野	普通	1.46	1.32	160	161
			機械	1.83	1.03	80	79
		中野実業	電気	1.10	0.76	40	35
			土木	0.75	0.76	40	36
			商業	1.33	0.65	80	69
現在	H24	中野立志館	総合	1.12	1.22	240	240

## 2 学校の状況

<p>入学の状況</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・総合学科のシステムに魅力を感じて成績上位の生徒が入学してくるようになった反面、学力幅は広がった。</li> <li>・日々の地道な取組を通して地域の学校に対する評価が高まっており、常に一定の志願倍率を維持している。</li> <li>・総合学科は多様な科目が選択できて自由で楽しいという、総合学科についての理解が不十分な生徒、保護者が依然として多いため、入学を希望する中学生に対して、新しいシステムである総合学科についての丁寧な説明が必要である。</li> </ul>
<p>学習の状況</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・総合学科の特色である、単位制の導入や系列に応じた多様な科目選択の設置により、全体として学習意欲が上がってきている。</li> </ul>
<p>進路の状況</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・進路状況は、地元就職から国公立大学進学まで幅広い。今後とも、成績上位の生徒を伸ばすとともに、下位の生徒も育てる指導が必要である。</li> <li>・総合学科の特色の一つであるキャリア教育の取組を通して、進学・就職ともに成果が上がってきている。特に、就職内定率は100%を維持しており、統合前より向上している。</li> <li>・進学は、国公立大学にも合格できる状況になっており、進学に対する関心が高くなっている。</li> <li>・面接、小論文、大学入試センター試験対策など、全職員で進路実現のサポートを行っている。</li> </ul>
<p>生徒の概況</p>	<p>〈全日制〉</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・全体として落ち着いた高校生活を送っている。</li> <li>・1年次における「産業社会と人間」を通して、自分のキャリアプランが描けた生徒は、目標に向けて、授業に真剣に取り組み、また、部活動や生徒会活動でも生き生きと活動している。</li> <li>・問題行動が減少し、中途退学者も大幅に減少した。</li> </ul> <p>〈定時制〉</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・定時制には100名弱の生徒が在籍しており、生徒数から見ても、この地域唯一の定時制として重要な役割を果たしている。</li> <li>・定時制は平成25年度入学生から3修制を導入する予定である。</li> </ul>

課外活動	時期	年度	学校	運動系	文化系
	統合・ 転換前	H17	中野	31.7%	9.5%
			中野実業	45.1%	16.2%
	現在	H24	中野立志館	38.0%	26.5%
<ul style="list-style-type: none"> <li>・平成24年度、機械部が全国電動カート創作コンテストで総合優勝した。</li> <li>・男子スキー部が活発になっており、平成23年度は全国高校スキー大会において総合5位であった。</li> </ul>					
学校運営	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学年職員室を作り、学年の情報交換が日常的に行えるようにした。</li> <li>・「産業社会と人間」については、どの教員でも担当できるように教師用指導マニュアル（冊子）を作成した。</li> <li>・総合学科では、「産業社会と人間」における講演会や「課題研究」における発表会など、1学年の全生徒を収容できる施設が必要である。そのために大講義室を新設し、有効に活用している。</li> </ul>				
地域との連携	<ul style="list-style-type: none"> <li>・中野市、中野市商工会議所等との地域連携事業（信州なかのふるさとの味お披露目商談会、きのこフルーツ料理コンクール、まちなか音楽会、ションション祭り、バラまつり、えびす講など20事業）を進めている。</li> <li>・中野市と地域に密着した人材育成を目指すパートナーシップ協定を平成24年度内に締結するよう推進している。</li> <li>・平成19年に長野大学と協定を結び、福祉施設での実習や町おこしプロジェクト等において大学生と高校生と一緒に活動を行い、連携を深めている。</li> </ul>				
PTA・同窓会	<ul style="list-style-type: none"> <li>・PTAの統合に関わっては、平成19年の1年をかけて、保護者との密接な連携・協力のもと、PTAの規約・組織・体制を作り、平成20年5月に一本化した。</li> <li>・同窓会は、新しい同窓会の設立に向けて、同窓会設立準備委員会を設置して綿密に準備を進め、平成22年度に中野立志館高校同窓会に一本化した。</li> </ul>				

(3) 旧第3通学区（第1通学区）

○ 中条高校を長野西高校の地域キャンパスとした。 [平成21年度]

【実施した計画】

- 1 校名 長野西高校中条校
- 2 募集開始年度 平成21年度
- 3 設置課程・学科 全日制 普通科1学級  
及び募集学級数
- 4 センター校 長野西高校

【現在の状況】

1 志願倍率の変化

時期	年度	学校	学科	志願倍率		募集 定員	入学者 合計
				前期選抜	後期選抜		
地域キャンパス化前	H19	中条	普通	0.25	0.15	80	18
現在	H24	長野西高校 中条校	普通	1.20	0.85	40	34

2 学校の状況

入学の状況	<ul style="list-style-type: none"><li>・地域キャンパス校になり学校が小規模になったにもかかわらず、これまでの取組が評価され、入学者が多くなり学校に活気が出てきた。</li><li>・もう一度やり直したいという希望を持って入学してくる生徒もあり、その期待にどれだけ応えられるかが課題である。</li></ul>
学習の状況	<ul style="list-style-type: none"><li>・1年は国語・数学・英語で習熟度別授業を、2・3年はコース別で少人数授業を実施している。このような習熟度別授業やコース別授業を行うために、1クラスを2つに分け、きめ細かな指導を行っている。</li><li>・きめ細かな指導の成果もあり、生徒は少人数講座の中でじっくり授業に取り組んでいる。</li><li>・就職・進学個別指導に力を入れ、生徒の進路希望を実現できるように努めている。また、その一環として、新たに、進学補習やテスト前補習など、補習を実施するようになった。</li><li>・特色ある教育課程として、森林整備等を行う地域体験型授業「チャレンジ」や、学び直しを行う「ベーシック」を新設した。</li></ul>

進路の状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域キャンパス化にともない、学習に前向きに取り組もうとする生徒も入学してきており、長野県短大や公務員への進路が実現されている。</li> <li>・大学等の指定校推薦枠において、本校と分校が別枠になっておらず、一つの学校として扱われることが多く、進路指導上の課題となっている。</li> </ul>															
生徒の概況	<ul style="list-style-type: none"> <li>・これまでの地道な取組が評価され、この学校に来たい生徒が入学するようになってきており、雰囲気大幅に改善した。</li> <li>・中途退学者は大幅に減少した。昨年度は退学者ゼロである。</li> <li>・問題行動も大幅に減少し、ほとんどない状況である。</li> <li>・不登校経験者が全体の約1 / 3いるが、小規模ゆえのアットホームな雰囲気の中でほとんどが回復している。</li> </ul>															
課外活動	<table border="1" data-bbox="544 613 1441 846"> <thead> <tr> <th>時期</th> <th>年度</th> <th>学校</th> <th>運動系</th> <th>文化系</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>地域キャンパス化前</td> <td>H17</td> <td>中 条</td> <td>24.3%</td> <td>18.4%</td> </tr> <tr> <td>現 在</td> <td>H24</td> <td>長野西高校 中 条 校</td> <td>21.4%</td> <td>7.1%</td> </tr> </tbody> </table> <ul style="list-style-type: none"> <li>・下校のバスの時刻の制約があり、活性化の妨げの要因になっている。</li> <li>・地元中学校のベースボールクラブが高校のグラウンドに来て活発に練習しており、そのことも刺激になって地元生徒の入学により野球部が復活した。</li> </ul>	時期	年度	学校	運動系	文化系	地域キャンパス化前	H17	中 条	24.3%	18.4%	現 在	H24	長野西高校 中 条 校	21.4%	7.1%
時期	年度	学校	運動系	文化系												
地域キャンパス化前	H17	中 条	24.3%	18.4%												
現 在	H24	長野西高校 中 条 校	21.4%	7.1%												
学校運営	<ul style="list-style-type: none"> <li>・センター校との距離があり、一定の独自性を持った学校運営を行うために副校長を置いている。</li> <li>・小規模であっても一定の教育の質を維持していくために、教員数は、標準教員定数8人に対し4人を加配し、12人としている。</li> <li>・長野市（中条中学校）と専門科教員の相互派遣を実施することにより、小規模校における専門性の不足を補っている。相互派遣の制度は、地域における中高連携のモデルケースの一つであると考えられる。</li> </ul>															
地域との連携	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域の学びの拠点として、地域との活動を重視しており、運動会・スポーツ大会・ふれあい祭りなどに積極的に学校が参加し、地域からも高く評価されている。</li> </ul>															
PTA・同窓会	<ul style="list-style-type: none"> <li>・PTAは長野西高校PTAと独立しており、今後もその方向である。</li> <li>・中条高校同窓会は引き続き存続しており、物心両面にわたり支援を受けている。また、長野西高校中条校同窓会が新たに発足した。</li> </ul>															

○ 犀峽高校を篠ノ井高校の地域キャンパスとした。 [平成 23 年度]

【実施した計画】

- 1 校 名 篠ノ井高校犀峽校
- 2 募集開始年度 平成 23 年度
- 3 設置課程・学科 全日制 普通科 1 学級  
及び募集学級数
- 4 センター校 篠ノ井高校

【現在の状況】

1 志願倍率の変化

時期	年度	学校	学科	志願倍率		募集 定員	入学者 合計
				前期選抜	後期選抜		
地域キャンパス化前	H21	犀 峽	普通	0. 8 3	0. 3 6	8 0	4 6
現 在	H24	篠ノ井高校 犀 峽 校	普通	0. 8 0	0. 6 3	4 0	3 3

2 学校の状況

入学の状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域キャンパス校になっても地元中学校(信州新町中、大岡中、信更中)出身者が学年全体の約50%を占めるなど、地域の学びの拠点になっている。</li> <li>・不登校経験者や発達障害のある生徒に対するこれまでの教育が評価されており、旧4通学区からの入学者の割合が約30%を超えている。</li> </ul>
学習の状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>・広い学力幅に対応するために進学指導、学び直し両面にわたり手厚い指導をしており、平成24年度はコース制（進学コース、総合コースの2コース）を実施しているが、平成25年度からは特に学力幅の大きい国語・数学・英語に特化して習熟度別の講座制を導入する予定である。</li> <li>・1年次総合コースに週3時間の学校設定科目「スクエアⅠ」を設置し、国語・数学・英語の学び直しを実施しており、生徒にはよくわかるということで大変好評である。</li> </ul>
進路の状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>・進路は、概ね進学が6割、就職が4割である。大学入試センター試験を毎年4、5名は受験している。</li> <li>・3年次には進学補習を実施し、一般入試で受験できるように指導している。また、就職については、会社訪問に毎回職員が付き添うなどの指導を行っている。</li> <li>・障害のある生徒の就職については、採用に積極的な企業の開拓や事前の就業体験を実施している。</li> </ul>

生徒の概況	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域キャンパス化により、学校規模が小さくなり、一人一人の生徒に寄り添った指導がより迅速にできるようになった。</li> <li>・中学校時代の不登校経験者は、従前から積極的に受け入れているが、学校が小規模である利点を生かしたアットホームな雰囲気の中で入学してから回復する傾向にある。</li> <li>・殆どの生徒の概況について情報共有ができており、生徒とのコミュニケーションは比較的取り易い。</li> </ul>															
課外活動	<table border="1" data-bbox="544 461 1437 696"> <thead> <tr> <th>時期</th> <th>年度</th> <th>学校</th> <th>運動系</th> <th>文化系</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>地域キャンパス化前</td> <td>H17</td> <td>犀 峡</td> <td>45.7%</td> <td>10.1%</td> </tr> <tr> <td>現 在</td> <td>H24</td> <td>篠ノ井高校 犀 峡 校</td> <td>43.6%</td> <td>34.2%</td> </tr> </tbody> </table> <ul style="list-style-type: none"> <li>・カヌーは、全国高校総体において、男子ペア、女子ペア、男子シングルの各部門で準決勝に進出した。</li> <li>・生徒数の減少により、人数的に運動部は厳しい状況である。</li> </ul>	時期	年度	学校	運動系	文化系	地域キャンパス化前	H17	犀 峡	45.7%	10.1%	現 在	H24	篠ノ井高校 犀 峡 校	43.6%	34.2%
時期	年度	学校	運動系	文化系												
地域キャンパス化前	H17	犀 峡	45.7%	10.1%												
現 在	H24	篠ノ井高校 犀 峡 校	43.6%	34.2%												
学校運営	<ul style="list-style-type: none"> <li>・平成25年度には、小規模であっても一定の教育の質を維持していくために、教員数は、標準教員定数8人に対し4人を加配し、12人とする予定である。</li> <li>・学校の小規模化により教員数が減っていくが、地域との交流や特色ある部活動、放課後の補習など、今まで学校を活性化するために行ってきた活動は維持していきたいと考えており、そのための努力が必要になってきている。</li> </ul>															
地域との連携	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域の学びの拠点として、地域との活動を重視しており、化石博物館の指導による化石実習、町フェアへの出店、小学校へのボランティア遠足、犀川でのカヌー授業など、地域の教育資源を生かした連携や活動を積極的に行っていて、地域からの評価も高い。</li> <li>・出前授業、教科別連携懇談会など、地元小中高の連携は地域キャンパス校となる前からかなり行っている。</li> </ul>															
PTA・同窓会	<ul style="list-style-type: none"> <li>・PTAは篠ノ井高校PTAと独立しており、今後もその方向である。</li> <li>・同窓会については、篠ノ井高校同窓会との統合の予定はない。ただし、両同窓会で名簿を管理しており、篠ノ井高校の名簿にも犀峡校の生徒の氏名が掲載される予定である。</li> </ul>															

○ 屋代高校に県立中学校を設置し、併設型中高一貫校に転換した。 [平成24年度]

【実施した計画】

- |        |           |
|--------|-----------|
| 1 設置場所 | 屋代高校      |
| 2 設置年度 | 平成 24 年度  |
| 3 募集人員 | 2 学級 80 人 |

【現在の状況】

1 志願倍率の変化

年度	募集定員	志願者数			志願倍率
		男子	女子	合計	
H24	80	265	247	512	6.40
H25	80	221	222	443	5.54

2 学校の状況

入学の状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ここ2年間の志願倍率は高く、中高一貫教育に対する児童・保護者のニーズや県民の期待は大きい。</li> <li>・入学者の通学範囲は広く、交通機関の沿線を中心に、東北信の広域から通学している。</li> </ul>
学習の状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>・55分授業の実施、中高教員の乗り入れ授業等を通して、学習習慣の確立が図られ、基礎的な学力と学習方法を習得できるようになってきている。</li> <li>・中学・高校の枠にとらわれない学習内容の再構成、縦と横の学びを紡ぐ深化・発展学習等を通して、学ぶ楽しさを味わい、学習への興味・関心を高めてきている。</li> <li>・数学と英語については、中学と高校の教員が共同で教材を開発するとともに、互いに協力し合って少人数授業を行っている。</li> </ul>
生徒の概況	<ul style="list-style-type: none"> <li>・将来の夢や目標を持った生徒が多い。</li> <li>・好奇心旺盛で授業中の質問が多く、自分の考えをしっかりと伝えることができる。</li> <li>・読書好きの生徒が多く、図書館利用が活発である。</li> <li>・長野県統計グラフコンクールで、優秀校を受賞するとともに、中学生の部に6名の生徒が入賞。また、長野県発明くふうコンクール中学生の部に3名の生徒が入賞。更に、国立極地研究所主催の第9回中高生南極北極科学コンテストにおいて、天文班(中高合同の部活動)に所属している1年生が「北極と日本での流星の見え方の違い(北極と南極で流星群の見え方)」により最高賞である「北極科学賞」を受賞した。</li> <li>・通学にあたっては、大部分の生徒が交通機関を利用している。</li> </ul>

課外活動	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒の 95%が部活動に加入して活発に活動している。特に、硬式テニス、卓球、剣道等の中高合同の部活動では、活動に熱心に取り組んでいる高校生の姿が中学生により刺激を与えている。</li> <li>・中高合同の部活動や生徒会活動を通して、異年齢集団による交流が多くみられ、社会性の伸長に効果的である。</li> <li>・中体連等の各種大会、吹奏楽のコンクール等を通して、市町村立中学校との交流が図られている。</li> </ul>
学校運営	<ul style="list-style-type: none"> <li>・中高の教員が連携して、6年間を見通した計画的・継続的な教育課程を編成し、学力向上を図るようにしている。</li> <li>・併設型中高一貫校の利点を生かして、教育効果が高められるよう、中高間の交流を意識した学校運営を行っている。</li> <li>・社会の第一線で活躍する社会人から学ぶキャリア講演会、中高合同のSSHフォーラム、先端企業等の見学を行う臨海研修合宿、ボランティア体験等を通して豊かな人間性の育成やキャリア教育の充実を図り、21世紀を担う有為な人材の育成を目指した学校運営を行っている。</li> </ul>
地域との連携	<ul style="list-style-type: none"> <li>・屋代高校前駅の花壇づくりに取り組み、地域から好評である。</li> <li>・平成25年度には、千曲市の主催する「名月の里・おばすて『棚田貸します制度』」に参加予定で、そのための計画及び準備をしている。</li> </ul>
PTA・同窓会	<ul style="list-style-type: none"> <li>・中高一貫合同PTAとして全国高等学校PTA連合会に入会。</li> <li>・平成26年度のPTAの正式発足へ向け、「中高一貫合同PTA検討委員会」を立ち上げ、役員組織、委員会及び事業内容、PTA会費等を検討しながら中高合同で活動している。</li> <li>・屋代高等学校同窓会主催の「屋高フォーラム」や公開シンポジウム等にも生徒が参加し、キャリア教育を深めている。</li> </ul>

## 2 第2通学区の再編計画

### (1) 旧第5通学区（第2通学区）

○ 丸子実業高校を総合学科に転換し、丸子修学館高校に校名変更した。〔平成19年度〕

#### 【実施した計画】

- 1 募集開始年度 平成19年度
- 2 活用する校地校舎 丸子実業高校
- 3 設置課程・学科 全日制 総合学科7学級  
及び募集学級数

#### 【現在の状況】

- 1 志願倍率の変化

時期	年度	学校	学科	志願倍率		募集定員	入学者 合計
				前期選抜	後期選抜		
転換前	H17	丸子実業	普通	1.79	1.07	120	121
			応用生物	2.05	1.19	40	40
			建設工学	1.50	1.00	40	39
			商業	1.08	1.00	80	80
			被服	1.50	1.00	40	40
現在	H24	丸子修学館	総合	1.34	0.96	280	277

### 2 学校の状況

入学の状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 志願状況に大きな変化はないが、地元中学校からの入学者が若干増加するなど、丸子修学館高校の取組に対する地元の評価が高くなってきている。</li> </ul>
学習の状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 総合学科の大きな特色であるキャリア教育については、1年次の「産業社会と人間」、2年次の「キャリアスタディ」、3年次の「キャリアレッスン」「総合研究」において、その充実を図っている。キャリア教育の各取組に対して、8～9割の生徒は「有意義であった」と評価している。</li> <li>・ 反面、総合学科への転換にともない、専門高校の時と比べて検定、資格取得者数は減少している。</li> <li>・ 学力幅は広いが、その対応として学び直しの取組を始めている。</li> </ul>

<p>進路の状況</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>総合学科に転換してからは、進学希望の割合がやや高くなり、就職希望がやや減少している。進学希望が高まっている主な理由は、専門学校への進学希望者の増加によるものである。</li> <li>進路指導にあたり、生徒一人ひとりに学校独自の綴じ込み式進路ファイルを持たせ、生徒にはそれを活用させている。</li> </ul>															
<p>生徒の概況</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>総合学科転換後、キャリア教育の推進や自分の進路にあった科目選択をする取組等を通して、生徒の表情が明るくなり、学校全体が落ち着いている。</li> <li>学校への満足度は、総合学科の全国平均である80%を超えて、90%前後の高い満足度である。</li> <li>総合学科転換後、中途退学者は半数以下に減少した。問題行動件数も1/3～1/4に減少した。</li> </ul>															
<p>課外活動</p>	<table border="1" data-bbox="544 707 1401 880"> <thead> <tr> <th>時期</th> <th>年度</th> <th>学校</th> <th>運動系</th> <th>文化系</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>転換前</td> <td>H17</td> <td>丸子実業</td> <td>45.0%</td> <td>42.9%</td> </tr> <tr> <td>現在</td> <td>H24</td> <td>丸子修学館</td> <td>42.4%</td> <td>22.7%</td> </tr> </tbody> </table> <ul style="list-style-type: none"> <li>部活動は以前と同様に活発である。総合学科転換後は文化系クラブの比率は減っているが、吹奏楽部、合唱部、演劇部、書道部及び美術部等の活躍が顕著になっている。</li> <li>特色ある生徒会活動として、丸子地域7校が連携する「青少年ネットワーク（丸子地域小中高7校）」の中心として、挨拶運動、ボランティア活動等の取組を行っている。</li> </ul>	時期	年度	学校	運動系	文化系	転換前	H17	丸子実業	45.0%	42.9%	現在	H24	丸子修学館	42.4%	22.7%
時期	年度	学校	運動系	文化系												
転換前	H17	丸子実業	45.0%	42.9%												
現在	H24	丸子修学館	42.4%	22.7%												
<p>学校運営</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>総合学科では多様な選択科目を用意する必要があるため、普通科に比べて多くの職員配置が必要である。</li> <li>様々な進路希望を持つ総合学科の生徒にきめ細かく対応するため、企業及び上級学校の分野別進路ガイダンスでは、進路情報企業に依拠しない手づくりのガイダンスを実施している。</li> </ul>															
<p>地域との連携</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>総合学科にとって地域との連携は重要であり、東京農業大学食料環境経済学科、松本大学、上田女子短期大学との教育連携や上田市・上田市商工会とのパートナーシップ協定など、産学官の連携を積極的に学習活動に生かしており、その活動が地域で高く評価されている。</li> <li>上記以外にも、地元小学校との交流授業、介護老人福祉施設との連携事業をはじめ、地域と連携した多くの取組を行っている。</li> </ul>															

○ 東御清翔高校を多部制・単位制に転換した。〔平成 23 年度〕

【実施した計画】

- 1 募集開始年度 平成 23 年度  
 2 設置課程・学科 定時制 午前部 普通科 2 学級  
 及び募集学級数 午後部 普通科 1 学級

【現在の状況】

1 志願倍率の変化

時期	年度	学校	学科	志願倍率		募集定員	入学者合計
				前期選抜	後期選抜		
転換前	H21	東御清翔	普通	1.45	0.84	200	172
現在	H24	東御清翔	普通	1.46	1.39	120	午前部 108
							午後部 11

2 学校の状況

入学の状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>・多部制・単位制に転換した東御清翔高校の特徴が各中学校に浸透してきており、多部制・単位制に転換後、定員を超える入学希望が続いている。</li> <li>・入学した理由は、①自分のペースで学べるから、②少人数学級・少人数授業だから、の2つが圧倒的に多い。</li> <li>・地元の中学校を中心に近隣中学校から、学ぶ意欲と姿勢のある生徒が入学している。</li> <li>・佐久地域や千曲市からの入学者もあり、入学者の通学範囲は従前より少し広域化している。</li> </ul>
学習の状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>・多部制・単位制への転換にともない、「進学コース」や「体験ステージ」・「表現ステージ」など、特色ある学習活動を設定した。</li> <li>・特に、生徒の社会性やコミュニケーション能力を高めるために、地元の文化会館と連携した科目「舞台芸術」などの体験的な授業を設定した。また、生徒の進学ニーズに応えるために「スーパー進学コース」も設定した。</li> <li>・多部制・単位制への転換にともない、15～25人前後の少人数授業、習熟度別授業により、個に応じたきめの細かい学習指導が可能になった。</li> <li>・単位制の導入により、多彩な授業メニューを用意できるようになった。</li> <li>・新たな取組として補習や学習合宿等を実施し、生徒の要望に応えるとともに、生徒の学習意欲を更に喚起するようにしている。</li> <li>・学習に取り組む姿勢が前向きになり、落ち着いた授業展開ができるようになった。</li> </ul>

<p>進路の状況</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・補習においては基礎対応と進学対応の2講座展開にしたり、また、長野大学や上田情報ビジネス専門学校との連携授業を行うなど、新たな進路実現を達成しようと、学校全体で進路指導体制の充実を図っている。</li> <li>・社会に結びつける活動の充実が必要であり、キャリア教育を軸に社会人基礎力・コミュニケーション能力・進路対応学力等の充実を目指した取組を行っている。</li> </ul>															
<p>生徒の概況</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・中学校時代に不登校を経験した生徒が、東御清翔高校での学校生活を通して、不登校を克服する傾向にある。今後とも生徒の自尊感情や自己肯定感を高める活動を学校の活動全体の中で重視していくことが大切であると考えている。</li> <li>・多部制・単位制への転換にともない学校が落ち着いている。清掃、挨拶等がきちんとできるようになり、集会時の様子も一変した。それにともなって、生徒指導上の問題も大幅に減少した。</li> </ul>															
<p>課外活動</p>	<table border="1" data-bbox="563 757 1476 965"> <thead> <tr> <th>時期</th> <th>年度</th> <th>学校</th> <th>運動系</th> <th>文化系</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>転換前</td> <td>H17</td> <td>東 部</td> <td>29.1%</td> <td>11.8%</td> </tr> <tr> <td>現在</td> <td>H24</td> <td>東 御 清 翔 (1・2年生)</td> <td>18.3%</td> <td>24.5%</td> </tr> </tbody> </table> <ul style="list-style-type: none"> <li>・文化系クラブでは軽音楽部やマンガ・イラスト文芸部がいきいきと活動している。</li> <li>・運動系クラブについては、野球部がなくなるなど団体競技は全体的に厳しい状況にあるが、サッカー部など継続して頑張っているクラブもある。</li> </ul>	時期	年度	学校	運動系	文化系	転換前	H17	東 部	29.1%	11.8%	現在	H24	東 御 清 翔 (1・2年生)	18.3%	24.5%
時期	年度	学校	運動系	文化系												
転換前	H17	東 部	29.1%	11.8%												
現在	H24	東 御 清 翔 (1・2年生)	18.3%	24.5%												
<p>学校運営</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・不登校傾向や課題を抱えた生徒が、自分の居場所を確保したり、自分の良さを発見して自分に自信が持てるように、学校生活の様々な場面で指導や支援を行っている。</li> <li>・多部制・単位制への転換にともない、少人数学級を導入することにより、生徒一人ひとりの状況に応じた、きめの細かい学習・生活両面にわたる指導が可能になった。</li> <li>・多部制・単位制の特色の一つとして生徒の相談体制の充実を図っており、県派遣のカウンセラーと教育OBの相談員(週3日)を置いている。</li> </ul>															
<p>地域との連携</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域の方々を講師に招いての体験的な授業、保育園や福祉施設との交流授業、清翔合唱隊など、授業・生徒会・部活動・有志の活動など地域とともに活動する機会を増やしている。その結果、学校のイメージが良い方向へ大きく変化し、教員も生徒に活動の場を与えると実践に結びつくという実感を得ている。</li> </ul>															

### 3 第3通学区の再編計画

#### (1) 旧第8通学区（第3通学区）

- 箕輪工業高校に上伊那農業高校定時制を統合し、多部制・単位制に転換した。転換に伴い、箕輪進修高校に校名変更した。[平成20年度]

#### 【実施した計画】

- 1 対象校 箕輪工業高校、上伊那農業高校(定時制)
- 2 募集開始年度 平成20年度
- 3 活用する校地校舎 箕輪工業高校
- 4 設置課程・学科 定時制 I部 普通科1学級、工業科1学級（クリエイト工学）  
及び募集学級数 II部 普通科1学級  
III部 普通科1学級

#### 【現在の状況】

##### 1 志願倍率の変化

時期	年度	学校	学科	志願倍率		募集定員	入学者 合計
				前期選抜	後期選抜		
統合・ 転換前	H18	箕輪工業	普通	1.33	1.20	80	81
			総合工学	1.60	1.10	40	40
			機械(定時)	—	0.13	40	6
		上伊那農業	普通(定時)	—	0.60	40	23
現在	H24	箕輪進修	普通I部	2.15	1.23	80	46
			普通II部	2.00			34
			普通III部	0.70	0.25	40	18
			工業I部	1.45	0.95	40	39

##### 2 学校の状況

入学の状況	<p>・多部制・単位制への転換にともない、個々のライフスタイルや学習ペースに合わせて授業を選択できることから、中学校で不登校を経験した者が入学してくる割合が増加した。I部については、転換前後で大きな変化はないが、II部・III部はその割合が高い。また、III部は工業科から普通科に変わったため、女子の割合が増加した。</p>
-------	--

<p>学習の状況</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・多部制・単位制への転換により、意欲が上がり、勉強時間も増えた。箕輪進修高校への入学目的で、「ゆっくりと」「分かりやすく」「学び直す」という観点から、「勉強の進め方が合う」と答える生徒が増えた。</li> <li>・多部制・単位制により、少人数学級と少人数授業が可能になり、学力差のある生徒にきめ細かに対応できるようになった。</li> <li>・職員研修に力を入れ、ユニバーサルデザイン化した授業を行うなどの工夫を行っている。</li> <li>・単位制であるため、学校外の学修等による単位認定が有効に活用しやすいという利点があり、箕輪進修高校では、技能審査や就業体験等の単位認定の制度を積極的に活用している。</li> <li>・生徒の学習意欲が高まり、新たな取組として、夏期補習等も実施するようになった。</li> <li>・クリエイト工学科では、グループ別に課題研究に熱心に取り組んでいる。更に、キャリアロボットコンテストやマイクロロボットコンテスト出場を目指し活動している。</li> <li>・日本語が不自由な外国籍の生徒に対して、生活支援相談員による取り出し授業を実施している。</li> </ul>															
<p>進路の状況</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・多部制・単位制への転換にともない、学習に前向きに取り組もうとする生徒も入学してきており、7年ぶりに国立大学へ2名の合格者が出た。</li> <li>・障害のある生徒の就職については、障害者枠の雇用を利用して、就業体験を繰り返すなど、生涯にわたる就労の継続を目指している。</li> </ul>															
<p>生徒の概況</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・中学校時代に不登校を経験した生徒の多くが、箕輪進修高校でのアットホームな雰囲気の中、不登校を克服している。</li> </ul>															
<p>課外活動</p>	<table border="1" data-bbox="544 1240 1437 1491"> <thead> <tr> <th>時期</th> <th>年度</th> <th>学校</th> <th>運動系</th> <th>文化系</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>統合・ 転換前</td> <td>H17</td> <td>箕輪工業(全日)</td> <td>33.1%</td> <td>5.5%</td> </tr> <tr> <td>現在</td> <td>H24</td> <td>箕輪進修 (I・II部)</td> <td>31.6%</td> <td>26.6%</td> </tr> </tbody> </table> <ul style="list-style-type: none"> <li>・運動系クラブでは、バドミントン部、水泳部、平成22年から復活したフェンシング部等の活躍が見られる。</li> <li>・多部制・単位制への転換にともない、おとなしい生徒が増え、比較的活動が容易な文化系クラブへの加入が増えている。特にII部の生徒にこの傾向が強い。</li> <li>・生徒会が中心となったペンキ塗りやワックスがけ等の学校環境整備活動を実践している。</li> </ul>	時期	年度	学校	運動系	文化系	統合・ 転換前	H17	箕輪工業(全日)	33.1%	5.5%	現在	H24	箕輪進修 (I・II部)	31.6%	26.6%
時期	年度	学校	運動系	文化系												
統合・ 転換前	H17	箕輪工業(全日)	33.1%	5.5%												
現在	H24	箕輪進修 (I・II部)	31.6%	26.6%												

<p>学校運営</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・職員は、特別支援、発達障害についての研修を積み重ね、授業の工夫・改善、生徒への対応を丁寧に行っている。その結果、地域では、大変面倒見のよい学校であるという評判が定着している。</li> <li>・多部制・単位制への転換にともない、スクールカウンセラー、生活支援相談員、発達障害支援専門員、就職活動支援専門員等を配置し、特別支援教育コーディネーターを中心とする生徒の相談体制の充実を図った。また、そのことが、かつて不登校を経験した生徒が多い箕輪進修高校の教育活動により影響を与えている。</li> </ul>
<p>地域との連携</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・日本工業大学と連携し、生徒が大学で講義を受けたり、また、大学教員が高校で出張講義を実施したり、地域の人々を対象とした公開講座を開催している。</li> <li>・箕輪進修高校の職員が、地元の団体と共同で、地域の人々を対象にCADに関する講座を毎年数回開催している。</li> <li>・生徒会執行部が中心となり、地元の祭りに参加したり清掃等の奉仕活動を行っている。</li> </ul>

## 4 第4通学区の再編計画

### (1) 旧第10通学区（第4通学区）

○ 蘇南高校を総合学科に転換した。〔平成21年度〕

#### 【実施した計画】

- 1 募集開始年度 平成21年度
- 2 設置課程・学科 全日制 総合学科2学級  
及び募集学級数

#### 【現在の状況】

##### 1 志願倍率の変化

時期	年度	学校	学科	志願倍率		募集定員	入学者 合計
				前期選抜	後期選抜		
転換前	H19	蘇南	普通	1.13	0.38	40	26
			電気	0.90	0.21	40	16
			商業	1.20	0.30	40	26
現在	H24	蘇南	総合	0.95	0.36	80	50

##### 2 学校の状況

入学の状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>・転換時は、総合学科について中学生や保護者に十分理解されていない部分もあったが、情報の発信を工夫するなどした結果、最近では理解が進んでいる。</li> <li>・中学校訪問等においてPRをして体験入学にできるだけ多くの中学生を集めたり、蘇南高校の校名や生徒の活動の様子を印刷したクリアファイルを作成して学校説明会の折に配布するなど、学校の魅力づくりばかりでなく、情報発信に積極的に取り組んでいるにもかかわらず、地元中学校からの入学者が減少している。地元町村の人口の減少と、学校規模の大きい木曾青峰高校への希望者が多いことが一因と考えられる。</li> </ul>
学習の状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>・総合学科の特色であるキャリア教育の充実を図るため、1年次の「産業社会と人間」に引き続き、2年次では職場体験を、3年次には「総合研究発表会」を実施している。</li> <li>・日常の授業の中でも、プレゼンテーション能力やコミュニケーション能力の向上、資格取得や検定合格を意識した取組をしている。</li> <li>・進学希望者は文理系列を、就職希望者は経営ビジネス系列、ものづくり系</li> </ul>

	列を選択するなど、統一性のある科目選択ができており、一つの系列を重点的に学習するため、総合学科になっても専門性を確保できている。															
進路の状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>普通科目を履修している文理系列の生徒が、系列の枠を越えて商業の科目を選択し、簿記1級の資格取得によって国公立大学に進学するなど、蘇南高校の総合学科の特色を生かした進路が実現しはじめている。</li> <li>進学者と就職者は半々である。総合学科に転換後も、希望者はほぼ100%就職している。</li> </ul>															
生徒の概況	<ul style="list-style-type: none"> <li>小中学校の時から、同じ小集団の中で学校生活を送り、お互いに気心の知れた家族的な雰囲気の中で過ごしてきており、純粋でひたむきな生徒が多い。</li> </ul>															
課外活動	<table border="1"> <thead> <tr> <th>時期</th> <th>年度</th> <th>学校</th> <th>運動系</th> <th>文化系</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>転換前</td> <td>H17</td> <td>蘇南</td> <td>63.5%</td> <td>29.7%</td> </tr> <tr> <td>現在</td> <td>H24</td> <td>蘇南</td> <td>59.0%</td> <td>12.2%</td> </tr> </tbody> </table> <ul style="list-style-type: none"> <li>生徒数の減少により主に文化系クラブの部員数の減少が著しい。</li> <li>小規模ながらも、平成24年度は、電子技術部がロボットコンテスト全国大会に、バドミントン部が全国高校総体に出場するなど、生徒は熱心に取り組み、成果を上げている。</li> </ul>	時期	年度	学校	運動系	文化系	転換前	H17	蘇南	63.5%	29.7%	現在	H24	蘇南	59.0%	12.2%
時期	年度	学校	運動系	文化系												
転換前	H17	蘇南	63.5%	29.7%												
現在	H24	蘇南	59.0%	12.2%												
学校運営	<ul style="list-style-type: none"> <li>これまでの普通科、商業科、工業科（電気科）の伝統と実績を踏まえた蘇南高校の地域型総合学科の特色を生かし、生徒個々に合った科目選択や進路実現ができるよう、個別面談を多く取り入れるなど、きめ細かな指導を行っている。</li> </ul>															
地域との連携	<ul style="list-style-type: none"> <li>地域の学びの拠点となるよう、校長が区長会へ出席したり、地元広報紙へ学校紹介記事を投稿するなど、これまで以上に地域との連携を重視している。</li> <li>毎年、地域の小学校、中学校とテーマを決めて授業研究を行うなど連携を強化してきている。</li> <li>平成24年度は、蘇南高校数学科職員が講師となった夏休みの数学補習に地元中学校の3年生が全員参加した（蘇南高校で3講座5日間実施）。また、地元中学校体育館で、主に蘇南高校の職員・生徒が指導して、中高合同のクラブ練習も行った。</li> <li>地域の方々を講師に招き、「布草履作り」「郷土食献立作り」等の授業を行っている。</li> <li>「パソコン先生」「電子工作教室」等で地元の小中学生との交流を行っている。</li> <li>平成20年に「蘇南高校を育む会」が同窓会・PTAを中心に設立され、木曾南部の教育をテーマに地域フォーラムが毎年開催されている。</li> </ul>															

○ 木曾高校と木曾山林高校を再編統合し、木曾青峰高校を設置した。 [平成 19 年度]

【実施した計画】

- 1 対象校 木曾高校、木曾山林高校
- 2 募集開始年度 平成 19 年度
- 3 活用する校地校舎 木曾高校
- 4 設置課程・学科 全日制 普通科 3 学級、理数科 1 学級  
及び募集学級数 農業科 1 学級（森林環境）、工業科 1 学級（インテリア）  
定時制 普通科 1 学級

【現在の状況】

1 志願倍率の変化（全日制）

時期	年度	学校	学科	志願倍率		募集定員	入学者 合計
				前期選抜	後期選抜		
統合前	H17	木 曾	普 通	2. 0 0	0. 9 7	1 2 0	1 1 9
			理 数	1. 1 9	1. 5 0	4 0	4 0
		木 曾 山 林	林 業	0. 6 0	0. 4 1	8 0	3 9
			インテリア	1. 4 0	0. 8 5	4 0	3 8
現 在	H24	木 曾 青 峰	普 通	—	0. 9 5	8 0	7 6
			森 林 環 境	1. 1 0	1. 0 5	4 0	4 0
			インテリア	1. 1 5	0. 4 0	4 0	2 8
			理 数	1. 0 7	0. 2 0	4 0	3 1

2 学校の状況

入学の状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ これまでも木曾郡内の半数以上の生徒が入学していたので、統合に伴う入学者の状況に全体として大きな変化はない。</li> <li>・ 統合により、職業系専門学科の充足率が高くなっている。</li> </ul>
学習の状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 普通科、理数科、職業系専門学科が 1 つの学校に集約されたことにより、それぞれの学科の生徒がお互いによい刺激・影響を与えあい、それが学習面、生活面でも成果として現れてきている。</li> <li>・ 統合による学科改編で、森林環境科に、林業に加えて、農業、食物、ものづくりなど様々な分野の職員が集まることとなり、学習内容が多様化し、活性化している。</li> </ul>
進路の状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 国公立大学進学者数については、理数科は統合前後で大きな変化はなく、普通科は減少傾向にある。</li> <li>・ 森林環境科では、1 期生で国公立大学に 2 名合格。インテリア科でも、1</li> </ul>

	<p>期生で国公立大学に1名合格。特に、インテリア科の生徒は、普通科・理数科の生徒とともに補習に参加し、一般入試で合格している。これも統合効果の一つといえる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・普通科は、木曾高校からの伝統を引き継ぎ地域の評価が高いが、以前に比べると特色が出しにくく、その活性化が課題である。</li> <li>・統合校の利点を生かし、3年次に普通科と職業系専門学科の間で、自分の進路に合わせて他学科の一部の科目を選択できるような教育課程を編成している。</li> <li>・統合により、学力の高い生徒が各学科に拡散するようになり、国公立大学進学を考えた場合、各学科の教育課程が異なる中、どのように指導していけばよいのかという課題がある。</li> <li>・普通科・理数科の職員と職業系専門学科の職員との間に、例えば土曜補習の進め方について温度差があるなど、受験指導についての考え方に違いがある。</li> </ul>																		
<p>生徒の概況</p>	<p>〈全日制〉</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・理数科については、お互いが頑張りあえる集団形成がなされ、学習や生徒会活動等でのよい結果に結びついている。</li> <li>・森林環境科、インテリア科は新聞等で取り上げられることが多く、そのことが志願者の増加につながっていると考えられる。</li> <li>・文化祭は、職業系専門学科の発表・販売を通して学校の個性を強くアピールできる場になっているなど、活動成果発表型の文化祭になっている。</li> <li>・中途退学者は減っている。</li> </ul> <p>〈定時制〉</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・定時制の生徒は、文化祭で全日制の代表に続いて、定時制の代表も臆することなく挨拶するなど、行事等にもしっかりと取り組んでいる。</li> <li>・少人数指導の中で、ゆったりとした気持ちで学習に取り組んでいる。</li> <li>・この地域唯一の定時制として重要な役割を果たしている。</li> </ul>																		
<p>課外活動</p>	<table border="1" data-bbox="526 1433 1380 1635"> <thead> <tr> <th>時期</th> <th>年度</th> <th>学校</th> <th>運動系</th> <th>文化系</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="2">統合前</td> <td rowspan="2">H17</td> <td>木 曾</td> <td>75.0%</td> <td>33.2%</td> </tr> <tr> <td>木 曾 山 林</td> <td>38.5%</td> <td>14.2%</td> </tr> <tr> <td>現 在</td> <td>H24</td> <td>木 曾 青 峰</td> <td>57.9%</td> <td>37.3%</td> </tr> </tbody> </table> <ul style="list-style-type: none"> <li>・平成19年の統合開始時より、多くのクラブが丘の上キャンパス（木曾高校校地校舎）、新開キャンパス（木曾山林高校校地校舎）合同で活動するようになり、クラブ活動が活性化した。特に、木曾山林高校では、統合前にはクラブ加入率が低く、部員数が少ないため、チームを組めないクラブもあったが、統合により改善された。</li> <li>・相撲部の全国的な活躍により、木曾青峰高校としての一体感がでてくるとともに、木曾青峰高校の認知度が高まった。</li> </ul>	時期	年度	学校	運動系	文化系	統合前	H17	木 曾	75.0%	33.2%	木 曾 山 林	38.5%	14.2%	現 在	H24	木 曾 青 峰	57.9%	37.3%
時期	年度	学校	運動系	文化系															
統合前	H17	木 曾	75.0%	33.2%															
		木 曾 山 林	38.5%	14.2%															
現 在	H24	木 曾 青 峰	57.9%	37.3%															

<p>学校運営</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・統合に伴い、職員数が増えたことで、係、委員会、クラブ顧問等での分掌のかけ持ちが少なくなり、職員の負担が軽減した。</li> <li>・統合により、普通科、理数科、職業系専門学科を併置する多様な学校となり、その中で、受け入れた生徒の様々な個性や能力を伸ばすことができるよう、オールラウンドな学校づくりを進めてきている。その反面、一言で学校をアピールすることが難しくなり、学校の特色が認知されにくくなっている。</li> <li>・テニスコートなど、統合に伴う施設の整備が完了していない部分があり、課題となっている。</li> </ul>
<p>地域との連携</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・森林環境科及びインテリア科は、伝統文化教育の一環として地域の専門家を外部講師として招き、伝統野菜栽培、わっぱ作り等の実践の中で、地域の文化に直接触れている。</li> </ul>
<p>PTA・同窓会</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・長い伝統を持つ両校であるが、PTA・同窓会の統合は比較的スムーズに行われた。</li> <li>・統合に伴い同窓生が増え、学校への支援の輪が拡充した。</li> </ul>

(2) 旧第 11 通学区 (第 4 通学区)

○ 松本筑摩高校に松本工業高校定時制を統合し、多部制・単位制に転換した。 [平成 19 年度]

【実施した計画】

- 1 対象校 松本筑摩高校、松本工業高校 (定時制)
- 2 募集開始年度 平成 19 年度
- 3 活用する校地校舎 松本筑摩高校
- 4 設置課程・学科 定時制 午前部 普通科 2 学級  
及び募集学級数 午後部 普通科 1 学級  
(通信制は募集定員) 夜間部 普通科 1 学級  
通信制 普通科 300 名

【現在の状況】

1 志願倍率の変化

時期	年度	学校	学科	志願倍率		募集定員	入学者合計
				前期選抜	後期選抜		
統合・ 転換前	H17	松本筑摩	普通(全日)	—	1. 33	120	117
			普通(昼定)	1. 65	1. 53	80	80
			普通(夜定)	0. 15	0. 32	40	20
		松本工業(定)	工業技術	—	0. 43	40	13
現在	H24	松本筑摩	普通午前部	1. 55	1. 08	120	90
			普通午後部				29
			普通夜間部		0. 17		40

2 学校の状況

入学の状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>・多部制・単位制の特質を生かし、平成20年度入学者選抜より、前期選抜の募集の観点の一つとして「不登校や心身の不調」を明記し、不登校経験はあっても、前向きに勉強したい生徒を積極的に受け入れる姿勢を鮮明にした。その結果、不登校経験者の割合が増えているが、その多くがきめ細かな指導を通して不登校を克服している。</li> <li>・通信制への入学では転入学・編入学が入学者全体の7割程度と多く、全国平均の4割程度を大きく上回っている。また、平成19年度より2期制をとっており、やり直しを考えている生徒にとって、4月を待たずに転学できることは救いになっている。</li> </ul>
-------	--

<p>学習の状況</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・多部制・単位制への転換にともない、習熟度別・少人数（20～25人）講座編成で授業展開が可能になった。</li> <li>・多部制・単位制の利点を生かして、他部の科目履修を併用することができ、進路選択肢が広がっている。</li> <li>・多部制・単位制への転換にともない、様々な学習歴や生活歴をもつ生徒にきめ細かく対応するために、「学び直し」を含め数多くの学校設定科目を設置した。</li> <li>・社会への適応に困難を抱える生徒も多いため、総合的な学習の時間を軸として、卒業までを見通した系統的なキャリア教育を実施している。午前部・午後部においては、平成24年度、全生徒を対象に就業体験を実施した。また、コミュニケーション能力を育成するために、1年次よりソーシャル・スキル・トレーニングを導入している。</li> <li>・通信制を併置している利点を生かして、松本筑摩高校の午前部・午後部の生徒、および他校の夜間定時制の生徒が数名、定通併修を行っている。</li> </ul>
<p>進路の状況</p>	<p>&lt;午前部・午後部&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・経済不況の影響で雇用情勢に厳しいものがある。また、定時制はその影響を強く受けるため、就職での困難さを感じている。</li> <li>・総合的な学習の時間を見直し、入学時から卒業までの計画的なキャリア教育の充実を図り、社会的自立に向けた支援を行っている。特に、ずくだせ修行等の就業体験の参加者を増やし、その充実を図っている。</li> </ul> <p>&lt;夜間部&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・就職活動をする上で必要な知識やマナーを学ぶ学校設定科目「就職チャート」や「キャリアガイダンス」を開設するなど、入学から卒業までを見通した進路指導を展開している。</li> </ul> <p>&lt;通信制&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ここ数年、学校の指導による就職を希望する生徒が増えており、進路講話の他、マナーや面接の指導を個別に行っているが、通信制の生徒に対する門戸は依然として厳しい。</li> </ul>
<p>生徒の概況</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学校が安全で安心な場所であると意識されるようになり、その結果、中学校時代に不登校経験のある生徒の多くが登校可能となっている。</li> <li>・通信制の生徒の多くは、クラス担任、教科担任のこまめな連絡・声かけにより、学習を継続させ、学校に居場所ができたと感じている。</li> </ul>

	時期	年度	学校	運動系	文化系
	統合・ 転換前	H17	松本筑摩(全日)	32.9%	17.2%
	現在	H24	松本筑摩 (午前部・午後部)	16.0%	10.7%

  

課外活動	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学習以外の活動も活発になってきている。全校清掃活動として、上高地線の最寄駅までの通学路や学校周辺の美化活動に取り組んでおり、好評である。</li> <li>・運動系クラブでは、ほとんどが定時制の全国大会に出場している。</li> <li>・生徒会活動では、生徒会の最大行事である文化祭に向けて熱心に取り組んでいる。</li> </ul>
学校運営	<ul style="list-style-type: none"> <li>・相談体制（専門医・カウンセラー）を整備し、いつでも生徒と保護者が悩みを相談できる体制を構築しており、問題行動の早期発見、及び迅速な解決が可能となった。</li> </ul>
地域との連携	<ul style="list-style-type: none"> <li>・英文講読・古典講読を火曜日に、パソコン講座を水曜日・日曜日に地域住民に開放して、学校の教育力を地域に還元する生涯学習に取り組んでいる。社会人の高い学習意欲は、生徒に適度な緊張感を与えている。</li> </ul>

資料1 第1期長野県高等学校再編計画の概要

平成25年1月24日現在

通学区	実施した計画	実施準備中の計画
第1通学区	<p>飯山照丘 飯山南 } 飯山 (統合 H19)</p> <p>中野 中野実業 } 中野立志館 (統合・総合学科 H19)</p> <p>地域キャンパス化 H21 中条 → 長野西中条校</p> <p>地域キャンパス化 H23 犀峽 → 篠ノ井犀峽校</p> <p>東北信の併設型中高一貫校 H24 屋代 → 屋代附属中学校</p>	<p>飯山北 飯山 } 飯山 (2次統合 H26)</p> <p>須坂商業 須坂園芸 } (仮称)須坂創成高校 (統合 H27)</p>
第2通学区	<p>丸子実業 → 丸子修学館 (総合学科 H19)</p> <p>多部制・単位制 H23 東御清翔 → 東御清翔</p>	<p>北佐久農業 白田 岩村田(工) } (仮称)佐久平総合技術高校 (統合 H27)</p>
第3通学区	<p>多部制・単位制 H20 箕輪工業 上伊那農業 定時制 } 箕輪進修</p>	<p>中南信の併設型中高一貫校 H26 諏訪清陵 → (仮称)諏訪清陵附属中学校</p> <p>統合 H25 飯田工業 飯田長姫 } 飯田OIDE長姫</p>
第4通学区	<p>統合 H19 木曾 木曾山林 } 木曾青峰</p> <p>多部制・単位制 H19 松本筑摩 松本工業 定時制 } 松本筑摩</p> <p>地域型総合学科 H21 蘇南 → 蘇南</p>	<p>統合 H28 大町 大町北 } 普通高校</p>

○○○○ は活用する校地校舎

□□□□ は再編後の学校

■□□□ は学校数の減少を伴う再編

資料 2 【第 2 期長野県高等学校再編計画】 策定のスケジュール

年度	工 程
H25	第 1 期高等学校再編計画のまとめと課題の整理 第 2 期高等学校再編計画の基本理念や方針、進め方等について教育委員会事務局内での検討開始
H26	第 2 期高等学校再編計画の基本理念や方針等についての検討（継続） 外部検討委員会の立ち上げ準備（H26 年度前期） H26 年度後期より外部検討委員会による検討開始
H27	外部検討委員会による検討（H26 年度からの継続） 外部検討委員会からの答申、産業教育審議会の開催 県民アンケート実施など様々な形で県民の声を聞く機会の設定
H28	再編計画素案作成、地域懇談会等の開催、パブリックコメントの実施
H29	各地域での調整、再編計画（案）作成 パブリックコメント実施、地域懇談会等の開催 第 2 期高等学校再編計画策定
H30 以降	準備のできたところから、順次個別の実施計画を策定し再編を実施